包装タイムス、2025年新春特別号（1月1日・6日版）に掲載されました
※掲載2か所（2ページ目も閲覧ください）

11頁

新製品を機動的に展開

PP製品のラインアップ拡充へ

北原産業
代表取締役
北原 忠氏

昨年の状況を振り返りますと、市場環境は依然として混沌としておりました。円安や原料価格の上昇は経済全体に影響を与えています。そのような中、当社は強みとする素早い商品展開と小回りの利く組織力を発揮してまいりました。進行する物価高の影響で消費者の買い控えが顕著でしたが、機動的な事業運営で顧客に必要とされる製品を精力的に開発し、スピード感を持って市場に展開しております。

製品展開において現在特に注力しておりますのは、PP（ポリプロピレン）製容器です。海外において比較的環境負荷の低いプラスチックとして評価が高まっているPPの容器事業を、積極的に拡大してまいります。PP容器のラインアップを充実させ、提案力を高めることで、海外需要も見越しつつ、環境に配慮した事業運営を進めてまいります。

人気の弁当容器「YJシリーズ」のリニューアルも行いました。従来の組み立て式共蓋を、組み立て済みのものに変更し、必要な時にすぐに使用可能となりました。本体は汁漏れしにくく、食品の直入れも可能となっています。黒を基調に高級感を演出しており、今回新色の「黒金」も追加。さらに上質な印象を強めています。

同じく弁当容器の「KEPシリーズ」では、新柄「パプリカ」を投入いたしました。赤や黄色の水玉模様と葉物野菜に見立てた鮮やかな緑色のラインが特徴的で、これまでにない遊び心のあるデザインとなっています。PP素材でレンジアップに対応するなど、機能性と意匠性を両立した製品です。

情報発信においては、SNSを重要なツールと位置付けています。従来の広報活動にとどまらず、営業ツールとしても積極的に活用しております。印刷資料を持ち歩く必要もなく、当社製品の営業活動をサポートしております。お客様自身も、インターネットで当社製品の情報収集が可能です。SNSの重要性は、今後より一層増していくものと思われます。

当社は、今年のテーマを「JUST GO STRAIGHT ON RIGHT DIRECTION」と定めました。社内の改革改善に向けて、若手からベテランまで、正しいと思ったことにまずは取り組んでみる姿勢を大切にしたい考えです。不確かな状況の中でも、見つかった改善案をまっすぐ信じて実行することを企業として心がけてまいります。

今年は消費者の購買意欲の回復に期待を寄せています。小売り量販店での値上げの波が落ち着けば、物価高による消費活動への抑圧に反動が生じると見ています。巳年は新しいことが始まる年と言われます。柔軟かつ積極的に新しい挑戦に取り組み、より多くの顧客満足を提供できる年にしていきたい所存です。

15頁

コンパクト〝ピコ弁〟が好評

和洋中料理に適した紙弁当容器

北原産業

北原産業（岡山県倉敷市、☎086・526・3040）が提案する「ピッコロ弁当」が話題を博している。従来の紙弁当容器に比べコンパクトな形状で製品仕上げされており、和食、洋食、中華など料理のジャンルを問わず使える。弁当容器に限らず惣菜容器としても活用できるとして今後、幅広い分野に周知を図っていく考え。

同社は、プラスチックから紙に至るまで素材を幅広く扱い、企画開発から生産・販売まで一貫して行う総合食品容器メーカー。現在、紙容器製品の拡充に取り組み、高級2段弁当「こと弁」はじめ各種紙容器製品を提案し好評を得ている。

「ピッコロ弁当」は従来の紙弁当容器に比べコンパクトな設計が特徴で観光ツアーや修学旅行、登山やハイキング用途などに最適。シンプルデザインにより和洋中など料理のジャンルや価格、メニューを問わず広く活用できるのが特徴だ。

本体は再生紙を素材に使い内面PP貼り&ウォータータイト仕様なので、ソースたっぷりなパスタなどの麺類、ひつまぶし風弁当などにも使用できる。

本体サイズは2種類あり、ごはん容量が380㌘に適した「PIC550BB」は100×80㍉で、ごはん容量が220㌘に適した「PIC350BB」は80×80×80㍉。蓋はOPS製の内嵌合蓋と外嵌合蓋の2種類、中皿はPPFで仕切り有と仕切り無の2種類から選べる。中皿を使うことでお弁当作りの分業化が容易で効率的。内面には中皿をセットした場合の位置合わせが簡単にできるように罫線を付与している。

同社では、「おしゃれでコンパクトな容器『ピッコロ弁当』が〝ピコ弁〟の愛称で好評だ。バスや新幹線を使用した観光ツアーのお弁当、ハイキングのお弁当に最適。黒色がベースなので中身の料理が映える高価格帯メニューにも使用できる」として、今後一層の拡販に力を注ぐ考え。

〝ピコ弁〟として好評の紙弁当容器